# 友愛家、留萌と共に

飛び出して行った。そして、お姉ちゃんは高校を卒業して、本州の短大へ入学しました。

## 友愛家　留萌と共に

**1年数ヶ月後、お姉ちゃんは成人式のため、留萌に帰ってきました。すっかり都会人ぽくなったけど、どことなく疲れている感じがします。そんなお姉ちゃんから、意外なことを聞くことになるのです。**

## はるか、決断する

**ミノル**　いやぁ。母さんの作るご飯は本当にうまい。

**ススム**　ぼくと、お父さんの釣った魚だもんね。今日も楽しい1日だったね。お父さん。

**はるか**　はぁ～。毎週魚釣りして、よく飽きないわね。

**ススム**　違うよ。先週は憩いの森へ行ったんだよ。

**はるか**　同じようなもんよ。そんな事ばかり繰り返して満足できて、ホントうらやましい。

**ミノル**　そういうはるかは、何がしたいんだ？

**はるか**　私は、平凡な生活から抜け出したいのよ！　やりたい事だってここではできない。アタシ、決めた。東京の短大へ行くわ！

**ススム**　えぇっ？！

**ミノル**　なんだと！　俺は許さんぞ！

**かなえ**　はるか、待ちなさい！

**お姉ちゃんは、そのまま部屋から**

**ススム**　お姉ちゃん、都会生活は楽しい？　いいよなぁ、ボクも高校卒業したら、絶対都会へ行くもんね。

**はるか**　ススム、お姉ちゃん、2年前は都会が一番、留萌は最悪って言ってたでしょ。

**ススム**　住んでみて、もっとそう思ったんじゃない？

**はるか**　それがね、確かに都会では、テレビや雑誌の中のような、私が思い描いていた生活があったわ。でも…。

**ススム**　でも、なんなの？

**はるか**　でも、暮らしていると、何かが足りないって感じ始めて、それがどんどん大きくなって…、うまく言えないんだけど、そこはアタシが生活する本当の場所じゃないような感じがしたのよ。

**ススム**　きっと疲れてるんだよ。

**はるか**　そうかもしれないわね。でも、初めて留萌の良さがわかったのかもしれないわ。

**かなえ**　はるか、お父さんが自分じゃ話しづらいからって、伝言を頼まれたの。

**はるか**　えっ？

**かなえ**　あのときは意地になってしまって悪かった。はるかは自分の道を進めばいい。でも、疲れたときは、いつでもうちへ帰っておいで。いつもの夕食を用意して待ってるから…、だって。私もお父さんと同じ想いよ。

**はるか**　……お父さん、お母さん。

**そして、お姉ちゃんは短大を卒業して、留萌へ帰ってきました。相変わらず、みんなの前では留萌の悪口を言っていいます。でも、2年前にくらべて、その表情はとても明るく、いきいきとしている気がします。留萌を離れることで、何か新しい留萌の良さを見つけることが出来たのかもしれません…。**

### ― あとがき ―

▼今回は、何気なく過ごしている日常を振り返り、みなさんの暮らしにとって留萌はどのようなまちなのか？という視点から「留萌生活」を特集しました。

▼これまで、市に寄せられたご意見などをもとに「生活」というとても身近なテーマを取り上げてみました。

でもそこには、留萌に暮らす私たち市民にとって、とても大切なキーワードが隠されているようにも感じました。

「いい生活」や「豊かな生活」と聞くと多分に物質的に恵まれている生活をイメージするのではないでしょうか、一方「しあわせな生活」という言葉に置き換えてみると心の豊かさや精神的なゆとりをイメージされるのではないのでしょうか。

▼友愛家の夕食を舞台に家族が交わした会話の中に、忘れかけていた留萌の魅力や留萌びとの温かさ、そして楽しく明るい「留萌生活」が見つかるかもしれませんね。

# 留萌生活
## あなたの楽しみは？

ぜひ、みなさんの「留萌生活」を教えてください！
広報るもいでは、留萌生活を楽しんでいる人のお話をお待ちしています！

**男性（40代）**

休日、たまに子どもと二人で緑ヶ丘から千望台、憩いの森まで往復約8ｋｍを景色や山の木々を見ながらトレッキングをしています。

夏には夏ぐみや木苺、秋だと秋ぐみを採り、帰ってきてから二人でジャムを作り、子どもと楽しみながら親子のふれあいを感じています。山や自然とのふれあいもでき、いいものです。

**女性（40代）**

町のどこからでも、夕日に染まったあかね雲が見えて、のどかな幸せな気持ちにしてくれる。

真っ赤な時は、黄金岬まで車を走らせると、今まさに海に沈もうとしている大きな夕日を見ることができ、雄大な気持ちがします。ちょっとした楽しみですね。

**男性（40代）**

毎朝、犬の散歩に出かけています。コースは、留萌川周辺コースと、潮静小学校往復コースです。

留萌川周辺コースを通る時には、あおさぎや、海鵜、かもめ、かもなどを見ることができます。

初冬には、川が氷で覆われる様子がわかり、とても幻想的な風景をかもし出しています。

山も季節ごとに色合いが変わりとてもいい雰囲気です。特に今の季節は紅葉がきれいです。

朝の散歩ということもあって、見知らぬ人でも「おはようございます」と挨拶を交わしています。とてもすがすがしいですよ。

**女性（30代）**

冬にしか見られない気嵐が好きです。神秘的で、ずーっと見ていたいなぁ…と思ってしまいます。今は、忙しくてゆっくり楽しむ余裕はありませんが、むかしは、わざわざ冷え込んだ朝に港まで行って見たものでした。

**男性（40代）**

冬の雪投げかな。毎朝、毎朝「ゲッ、何でこんなに⁉」と思うくらい積もるんだけど、これがまた運動不足の私にはけっこうな、朝一番の体にカツ入れになって、健康づくりの一環となっています。特に土・日曜日には半日、外での雪投げ状態で、終わるとビールのうまいこと。「冬はうまいビールを飲むために雪投げをやる。」これが楽しみ方のひとつです。

子供が小さいころには、カマクラづくりやスノーランタンづくりもやっていましたが、今では一冬に一度、自己満足のためにスノーランタンをやってます。

まあ、外に出るのがおっくうにならない程度にやってます。

**男性（20代）**

留萌と言ったら海。海と言ったら新鮮な魚介類。新鮮な魚介類を食べたいと思ったときに、礼受漁港で、その日に獲れた魚介類をすぐに買えることが嬉しいですね。

「魚の食べ方（料理の仕方）って何があるの？」とお店の人に聞くと、刺身・焼く・煮るのが一般的だと思っていたけど、八角を味噌汁にしたり、カスベの煮付けも、醤油煮じゃなくて味噌煮もいい！なんてことも教えてもらえて、魚の食べ方のレパートリーが増えました。

おいしものを食べられる食生活もひとつの楽しみです。